

# 刈谷市 歴史 博物館 NEWS

Vol. 14  
2023.10

Kariya city Museum of History NEWS

## CONTENTS

Next Exhibition [次回展示] -----	1
Description [解説] -----	2
Report [報告] -----	3
Column&Information [コラム&ご案内] --	4

## NEXT EXHIBITION 次回展示

### 企画展「姫たちの想い～家康を支えた水野家の女性たち～」

有料展

開催日 2023年10月14日(土)～11月26日(日)



▲ 伝通院坐像（京都・知恩院蔵）

刈谷城主水野忠政の娘である於大の方（伝通院）は、徳川家康の生母として知られています。しかし、松平家重臣石川家に嫁いで幼い家康を養育した於大の方の姉・妙春尼（妙西尼）や、家康養女として加藤清正の妻となり徳川・加藤両家の絆を築いた水野勝成の妹かな姫（清浄院）など、家康と深く関わった水野家の女性たちがいたことはあまり知られていません。

本展では於大の方に加え、知られざる水野家の姫たちを紹介し、動乱の中で生きぬいた姫たちの想いを探っていきます。

※記載内容は予告なく変更することがあります。

## 女性 女性の肖像から見える「姫たち」の姿

戦国時代、有名な人物として思い出されるのは主に男性である武将たちです。それに対し女性は武将の母、妻、娘として記録は残されますが、具体的な行動の記録は男性ほど残っていません。しかし、少ない史資料を紐解くと、夫や家族また国を支えた芯のある強かな女性たちの姿が見えてきます。今回、企画展「姫たちの想い」で展示する肖像や彫像を見ながら、刈谷ゆかりの3人の女性をご紹介します。

### 於大の方（伝通院）

戦国時代の刈谷を代表する女性と言えば、やはり徳川家康の母於大の方でしょう。征夷大將軍として大成した人物の母となれば、さ



▲【図1】於大の方

ぞや様々な品が残されていると思われるでしょうが、残念なことに於大ゆかりのものはあまり残っていません。しかし、於大が自ら作らせた肖像画（「伝通院画像」（愛知県指定文化財））が刈谷市・楞嚴寺に残されています【図1】。家康を産んだのは15歳と年若い少女の頃でしたが、こちらの肖像は年老いた落ち着きのある尼姿です。戦国という乱世で、自分の生きた道に想いを馳せているような表情に感慨を覚えます。そのほか、残された伝承や、「家忠日記」（重要文化財・駒澤大学図書館蔵）に登場する於大の姿など、点と点をつないでいくと、気遣いに長け、控えめながらも芯のある女性の姿が浮かんできます。また母於富の方は絶世の美女と謳われ、その娘である於大も美しい女性だったのではないかと想像が膨らみます。

### 妙春尼（妙西尼）

次に紹介する妙春尼（妙西尼）は於大の姉で、松平家臣石川忠成（清兼）に嫁いだ女性です。於大が松平家から離縁された後、幼い



▲【図2】妙春尼

竹千代を養育したと伝えられています。妙春尼に関する消息等は比較的残っており、それによると、

晩年、三河一向一揆後に抛り所を失っていた門徒たちを束ねる立場となっており、三河の浄土真宗の赦免を家康から取り付けるなどの働きを見せています。今回展示する肖像画（岡崎市・専福寺蔵）【図2】は幕末のものですが、伝わった史料と合わせると、どっしりと肝の据わった女性が見えてきます。控えめな於大に対して、しっかり者のお姉さんというところでしょうか。

### かな姫（清浄院）

最後に紹介するかな姫（清浄院）は於大の姪で、水野勝成の妹です。18歳で家康の養女となり、豊臣家の旧臣加藤清正に



▲【図3】かな姫

嫁ぎました。関ヶ原合戦直前、石田三成が人質政策を画策する中、かな姫は大坂を脱出し命からがら熊本まで逃げ延びました。夫清正の死後は加藤家を支え、娘の八十姫を家康十男徳川頼宣（紀伊徳川家初代）に嫁がせるなど徳川家と加藤家の絆を深めました。加藤家改易後は京都に住み、親族の子を養育するなど、常に周囲に心配りをしていたようです。かな姫開基の熊本県・法宣寺に伝わる木像【図3】は、そうした人柄を表すように優しげな表情を浮かべており、凛として愛情深いかな姫の姿が見て取れます。

かつて、戦国の姫たちは政略結婚の道具のように扱われ「戦国の女性の悲劇」という印象がありました。確かにそうした女性もいたかもしれませんが、今回紹介した女性たちは自分の務めに向き合いながらも、おおらかにしなやかに生きていた印象です。困難な時代を乗り越え、於大は75歳、妙春尼は84歳、かな姫は75歳で天寿を全うしました。

ここでは簡単に3人の女性たちについて主観を交えて解説しましたが、企画展「姫たちの想い」では3人ゆかりの品々などを紹介します。ぜひ、貴重な品々から姫たちの想いを感じ取っていただきたいと思います。

（当館学芸員 水野節子）

## REPORT 報告

## 企画展「北斎漫画 ー驚異の眼・驚異の筆ー」

2023年4月22日(土)～6月4日(日)



▲ 講演会の様子



▲ イベントの様子

今回の企画展では、言わずと知れた江戸時代の浮世絵師・葛飾北斎の代表作『北斎漫画』をご紹介します。北斎といえば、「富嶽三十六景」など、眼の冴える彩色の錦絵・風景を描く名所絵のイメージが先行しがちです。しかし本展をご覧いただいた皆様なら、モノクロや人物の観察力・表現力もまた、北斎の真骨頂であることがご理解いただけたことでしょうか。

また期間中は、本展監修者の浦上満様の講演会を開催し、大変多くの方にご聴講いただきました。初摺りと後摺りの比較、海外（特に印象派）の画家たちへの影響など、『北斎漫画』の魅力をより深く知っていただく機会となったのではないのでしょうか。

そのほか、『北斎漫画』掲載図を使ったイベントも開催し、より身近に北斎の作品に触れていただけたと思います。

本展にご出品・ご協力いただいた方々、ご来場の皆様に改めてお礼申し上げます。

(当館学芸員 永井優香子)

## 山車スペースから山車2両を搬出しました



▲ 山車搬出の様子

当館では刈谷市指定文化財「肴町の山車」 「新町の山車」2両を常時展示しています。この山車は5月に市内中心部で開催される「大名行列・山車祭」にて使用されるため搬出を可能にしていましたが、コロナ禍で中止が続いたため、平成31年の開館以来博物館を出ていくことはありませんでした。今年、5年ぶりの開催が決定し、5月5日(金・祝)に初めて博物館を出て街中へと繰り出しました。

山車を搬出するためにはシャッターとその外側にある大扉を開ける必要があります。さらに、梶棒と呼ばれる山車を引っ張るための

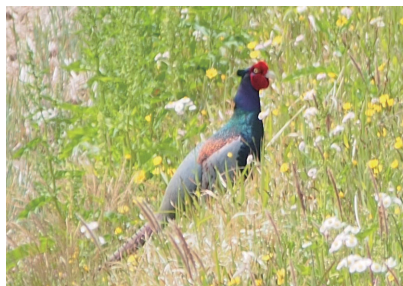
(当館学芸員 長澤慎二)



Column コラム

歴博周辺の鳥—雉・キジ—

雉（キジ）は日本の国鳥です。筆者の出身である岐阜市は田んぼが多く、幼いころから雉は身近な、それでいてカラフルで希少な鳥として接していました。就職で刈谷に来てからは、「ケーン！ケーン！」と母衣打ちの声は聞こえるものの中々その姿は見られず、今年になってようやく見る事が出来ました。（写真：2023.4.21 山下撮影）歴博周辺は、河川敷や田畑もあり、棲むのに適しているようです。



▲ 歴博周辺に現れたキジ

雉は、昔からこの地域に生息していて、資料には鷹狩りの獲物として登場します。天正19年（1591）11月頃、関白・豊臣秀吉が三河吉良で鷹狩りを行い、翌月京都に持ち帰った獲物には鶴・鴨・雁・白鳥・鳩・鶉とともに雉も挙げられています（「北野社家日記」）。

ただ、現代において雉は、狩猟を目的として広く放鳥されてきたため、在来個体との形態的区別が難しく、生物多様性上の課題も出てきているようです。（当館学芸員 山下智也）

INFORMATION ご案内

簡単工作（10月～12月）

- ・まが玉 300円
- ・折り紙「おひめさま」 無料
- ・季節メニュー「かつなりくんワッペン」 100円  
（10月14日～11月26日期間限定）

土日祝日開催  
受付は午後4時30分まで  
※まが玉の受付は午後4時まで  
※12月24日（日）の工作はお休み



カレンダー

10	日	月	火	水	木	金	土	11	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7					1	2	3	4
	8	9	10	11	12	13	14		5	6	7	8	9	10	11
	15	16	17	18	19	20	21		12	13	14	15	16	17	18
	22	23	24	25	26	27	28		19	20	21	22	23	24	25
	29	30	31						26	27	28	29	30		
								2024							
12	日	月	火	水	木	金	土	1	日	月	火	水	木	金	土
						1	2			1	2	3	4	5	6
	3	4	5	6	7	8	9		7	8	9	10	11	12	13
	10	11	12	13	14	15	16		14	15	16	17	18	19	20
	17	18	19	20	21	22	23		21	22	23	24	25	26	27
	24	25	26	27	28	29	30		28	29	30	31			
	31														

■ 姫たちの想い～健康を支えた水野家の女性たち～

■ 休館日

利用案内

開館時間：午前9時～午後5時  
観覧料：歴史ひろば・お祭りひろば…無料  
企画展示室…企画展ごとに異なります

交通案内

- 鉄道** JR 東海道本線 逢妻駅 から徒歩約15分  
名鉄三河線 刈谷市駅
- バス** 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」  
東刈谷線・逢妻線  
「刈谷市体育館」下車 徒歩約3分
- 車** 伊勢湾岸自動車道  
名古屋南IC、刈谷スマートICまたは豊田南IC から約20分

※ 記載内容等は変更することがあります。詳細・最新情報は当館ホームページ、または Twitter をご確認ください。

編集・発行

刈谷市歴史博物館  
KARIYA city Museum of History  
〒448-0838 愛知県刈谷市逢妻町4丁目25番地1  
TEL.0566-63-6100 FAX.0566-63-6108  
URL : <https://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/>



◀ 当館ホームページ  
企画展・イベントの詳細や、博物館NEWSのバックナンバーを掲載しています。



◀ 公式 Twitter  
最新の情報やイベントの告知など、時々つぶやいています。

※ QR コードはデンソーウェーブの登録商標です。